

保育界

2015
7



発行 日本保育協会

園庭ビオトープの活用

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



園庭ビオトープで見つけたアマガエルになりきり、イメージを膨らませてアマガエルのすみかを描く青葉丘幼稚園（大阪府）の園児たち／「全国学校・園庭ビオトープコンクール2011」でドイツ大使館賞を受賞

『様々な領域へ』



自然の中には、園児が面白いと感じるものがたくさんあります。園児は面白いと思うものを見つけたとき、そのことを友達や保育者にも一緒になって感じてもらいたくて、一生懸命伝えようとします。また、面白いと思ったものを自ら進んで描いたり、ごっこ遊びをしたり…。

このように、園庭ビオトープは、自然と触れ合い、様々な事象に興味関心を持つといった「環境」の領域にとどまらず、「言語」「人間関係」「表現」「健康」の領域の体験や行動の題材となり得ます。そのためには、①園児が自分自身で面白いと思うものと出会えるよう、ビオトープで遊ぶ時間を日常的に十分に確保すること、そして、②園児が面白いと思ったことを大切にして、様々な領域に上手につなげてあげることが大切です。

園庭ビオトープで見つけた“面白い”をきっかけに、園児の主体的な遊びは、様々な領域の活動へとつながり、広がっていきます。

■日本保育協会ほか後援『こども環境管理士資格試験』8月1日より申込開始

（公財）日本生態系協会では、園児の豊かな感性を育むために、自然について正しい知識をもち、自然がもつ保育力を積極的に活かすことができる保育士、幼稚園教諭、支援者を「こども環境管理士」として認証しています。詳しくは、こども環境管理士資格試験のサイトをご覧ください。

